

平成26年3月27日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 江角 敏和

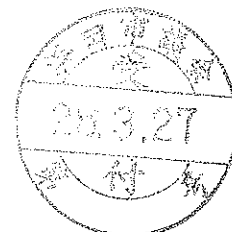


## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成25年10月29日(火)～ 10月31日(木)
2. 視察内容 ○海ぶどうの養殖について  
○渚の交番&地域観光について  
○医療体制の充実について  
※ 米軍機の飛行騒音状況について  
※ 戦跡・慰霊施設の視察について
3. 視 察 先 ○塩谷漁港(国頭郡恩納村)  
○北谷町観光協会(中頭郡北谷町)  
○県立中部病院(うるま市)  
※ 嘉手納・普天間基地周辺(道の駅・嘉数の丘)  
※ ひめゆりの塔、平和記念公園、糸数壕
4. 視 察 者 江角敏和 笹田卓  
他 島根県議会議員1名  
大田市議会議員1名
4. 視察経費 52,817円  
(詳細は別紙)
5. 調査研究活動の目的・概要  
(次ページから記)



## ○調査研究活動の目的・概要

### 【海ぶどうの養殖】(恩納村塩谷漁港)

10月29日(火)沖縄県国頭郡恩納村の塩谷漁協で、海ぶどうの養殖施設を視察した。2011年に、浜田市内でヒラメの養殖をされている施設を尋ね、当事者から「ヒラメ養殖を断念せざるを得ない」というお話を伺った。この「つくり育てる漁業」、とりわけ、一定の区画の中で水産動植物を養成する養殖業を、この浜田でまさに「育てる」ことはできないのか、そんな思いで、海ぶどうの養殖施設を選定し尋ねた。

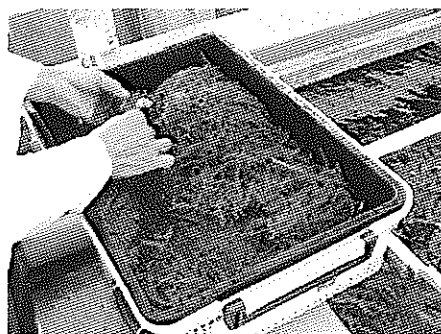


当日は、生産者の神谷研二さんより、施設案内や説明を受けた。この養殖施設の事業主体は、恩納村漁業協同組合で、平成7年度沖縄県水産業活性化構造改善特別対策事業により、整備されたものだった。



施設規模は、養殖場762.44㎡、養殖タンク36基等で、事業費は、1億859万7,020円で、事業費の内訳は、国県補助金が、9,049万7,000円、村補助金905万円、漁協負担金905万0,020円である。

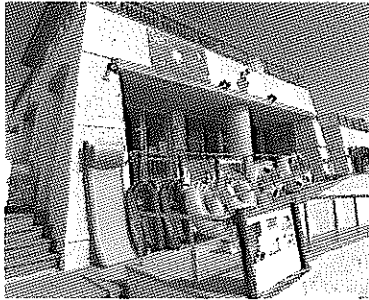
生産者は、一マスを、月5千円から8千円で借りておられ、他からの雇用ではなく家族だけが許されているようで、19家族が携わっていると伺った。また、これだけの養殖ではなく、もずくや海ごうやなども行われ漁も営んでおられる。「海ぶどう」は、沖縄本島や宮古島など限られた温かい海に生息し、日本語名「クビレズタ」だそうだが、球場の葉がぶどうの房のようになっていることから「海ぶどう」という名が、付けられたようである。



そうした生息環境から、何らかの熱源を利用し、水温や気温がうまく管理できれば、浜田でも養殖は不可能ではないと感じたが、先に紹介した、施設整備のほとんどを国県で、そして残りを村と漁協が支出していることから、国はもとより県や市が浜田で可能な養殖は何かを本気で研究し、将来的な水揚げ高アップに繋げる心意気が必要だと感じた。

## 【渚の交番&地域観光】（中頭郡北谷町）

10月30日（水）沖縄県中頭郡北谷町の観光協会へ、大城和樹さんらを尋ね、



車で現地へ出向き、施設案内や説明をしていただいた。

これまで日本財団が、海辺で活動している団体へ支援を行ってきたが、海辺の活動内容が専門性の高いものが多いため、地域や関係者の協力が広がり難いことを踏まえ、渚の交番プロジェクトが立ち上げられたようだ。

この渚の交番プロジェクト

は、前記のように「専門分野の支援から、地域の分野横断型」へ、という視点で海辺の様々な活動や、それに係わっている人、そして情報を横断するような、活動と拠点整備の方向へと進化を目指したものである。



浜田においても、市民レベルで、こうした活動の拠点づくりとして、渚の交番設置（建設）が検討されていることから視察に伺ったものである。

日本財団から、渚の交番の建設費および、3年間の事業費支援があり実施主体側は、この3年間で持続可能な運営体制を確立することが求められる。取組の方法は、様々であるようだが、尋ねた渚の交番は、北谷町のサンセットビーチを指定管理している事業者が、同ビーチの管理事務所で、海や周辺地域の安全を守り、住民らの交流の場とする渚の交番運営を、2012年6月1日からの試行期間を設け、2013年度から正式な助成期間として、スタートされていた。今後、新たな渚の交番の施設建設も視野に入れた計画が進んでいた。



事業は、指定管理会社の人達や、ダイビングショップやライフセイバーの人達が協力し、写真の財団が贈呈した車両で、渚の交番を拠点に町内の定期的な巡回、海辺のイベント、環境や動物の保全保護活動が行われているようだ。自主運営に向けた資金造成支援として、町内で不動産業を営んでおられる事業者から、自動販売機4台が寄贈され、飲料販売の利益を渚の交番へ寄附、そして販売機設置業者は電気料を負担し、運営への協力が行われていた。

いずれにしてもスタートして3年間の間に、持続可能な自主運営体制の確立がカギとなる。浜田でも財団の支援を活かし、瀬戸ヶ島の遊休地の活用等を視野に入れて、行政側も汗をかく必要があると感じた。

## 【県立中部病院】（うるま市）

10月30日（水）渚の交番の視察を終え、うるま市にある県立中央病院へ伺った。1次から3次までの救命救急医療といった救急部門が、この県立中部病院の特徴を表している。戦後の医療の復興が救急を中心に行われ、現在でもベット満床を理由に患者を断らないという理念が、綿々と引き継がれている病院である。1975年に救命救急センターの指定を受けて以来2004年まで、沖縄県内唯一の救命救急センターとして、現在も救命救急医療の中心を担われていることから、歴史的に医療体制の充実が、どのように図られてきたのか、その点を学ぶ目的で視察した。

当日は、松本廣嗣院長自ら、パワーポイントを使用して教示いただいた。まず、冒頭、「自ら医師を育成してきた歴史」の説明からインパクトがあった。要約すれば○医師不足に悩んだ戦後 ○国費医学留学生の本土派遣 ○国費留学生の帰還率の著減 ○帰還率向上目的に中部病院で研修開始 ○救急医療とプライマリケアによる研修医の育成 ○指導医の育成のための米国派遣 ○中部病院に研修医が全国から応募 ○研修制度を利用した離島の医師確保 と説明があった。

こうした経緯を踏まえ、「当院で医師確保に難渋した診療科」は、○脳神経外科 ○眼科 ○泌尿器科 だとし、「ほとんどの診療科は自前で賄えている」、「研修制度が有効に機能している」と。また「困っていない理由」として、研修制度で多くの研修医が集まる。その中から次世代の指導スタッフが生まれる。処遇を落としてでも中部での研修希望。退職しても研修後に中部に戻る。「帰巢の工夫」として、米国留学後の勤務義務。沖縄で結婚。「解決すべき問題」として、後期研修後の向上心を満たす仕組み（国内外研修）。2～3年の長期研修を支援する（国内外）。長期研修後の受入：十分な定数（ポスト）の確保等が言われた。

次に「臨床研修理念」は、「私達は、どの科に進もうともすべての研修医がプライマリ・ケアと総合診療を修め全人的医療を提供できる医師に育てます」と掲げられている。その「医学臨床研修事業で特筆すべきこと」として、○プライマリ・ケア、総合診療を指導できる指導医の養成をサポートしてきたこと、○総合専門医を育て上げることのできる指導医の養成をサポートしてきたことと説明された。

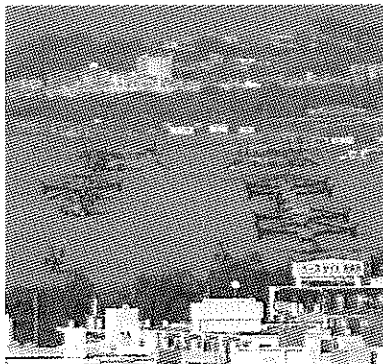
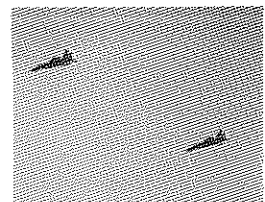
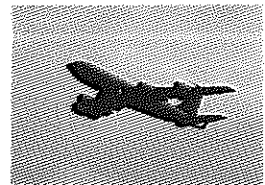
最後の「提言」では、「医師の偏在問題は自由選択の限界、医療政策を計画的人材育成に転換する時期」として、①地域の疾病構造と発生頻度の分析 ②地域の受診行動パターンの分析 ③1と2のデータから算出した医師の必要数～プライマリ・ケア医、総合診療医、総合専門医、専門医 ④各分野医師の必要数を計画的に育成と述べられた。

以上、長時間にわたった説明をごく短く要約したものだが、県立病院と国立病院機構との違いはあるものの、本質的には参考になる内容である。また、浜田市として県とも連携しながら、どれだけ医療センターを手助けできるのかがポイントとなるが、浜田市国保診療所の医師との連携は、これまで以上に重要であると感じた。

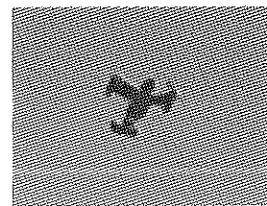
比較的に医師が集まる浜田市国保診療所体制を拡充し、医療センターへの支援、研修等を強化することができないか。総合専門医を育てることの重要性や研修制度の効力からも…。さらに、「浜田医療センターで働きたい」ということはもとより、「浜田市に住んでみたい」、「浜田市にある学校へ子どもを通わせてみたい」となるような街づくりを進め、発信することも重要だということを確認できた視察研修だった。

### ※嘉手納・普天間基地周辺

浜田市における米軍機の低空飛行訓練問題もあって、米軍機による騒音の実情も注目した。いたるところで米軍機が飛んでいて、「もう慣れっこ」だとの声もあった。それは、あまりにも頻繁に飛んでいるからだが、浜田の中山間地で行われているレーダーから逃れ突然低空飛行で飛んできて、模擬爆撃を行い、急上昇（大騒音）して逃げるといった訓練との違いがあるように感じた。



こうした違いも含め、人が住んで



いる上空を訓練空域にし、人が住む施設を低空飛行で爆撃することは絶対に止めてもらうことを、さらに議会でも取り上げなければと感じた。

### ※嘉数の丘、ひめゆりの塔、平和記念公園、糸数壕など

10月31日（木）の午前中、飛行機までの時間を利用して、ひめゆりの塔や、平和記念公園の平和の石礎、糸数壕、前日の嘉数の丘で、島根県人の碑を巡り慰霊した。特に糸数壕でのガイドさんの説明で、万感胸に迫るものがあった。誓いを新たにされた。

